

食の安全・安心シンポジウム「食品のリスクを考える～食品と放射線～（滋賀県）」 アンケート集計結果

H23.10.19

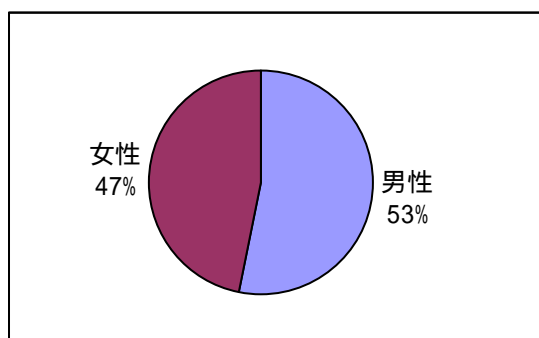
平成 23 年 10 月 19 日(水)にコラボしが 2 1 で開催しました、標記シンポジウムにおいて実施しましたアンケート結果は次の通りでした。

(参加者：130名 回答者：98名(回収率：75.4%))

問 1 . あなたご自身のことや食品の安全性に関するお考えについてお聞きします。以下の設問について、それぞれあてはまるもの 1 つを選んで番号を で囲んでください。

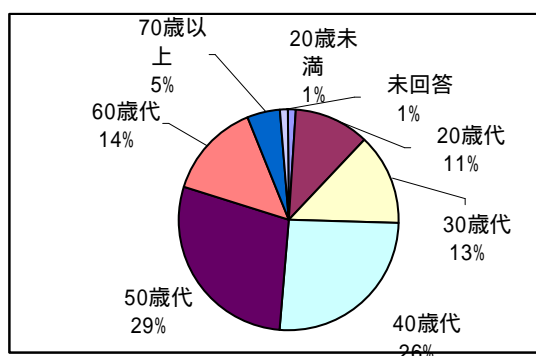
性別

男性(52人) 女性(46人)



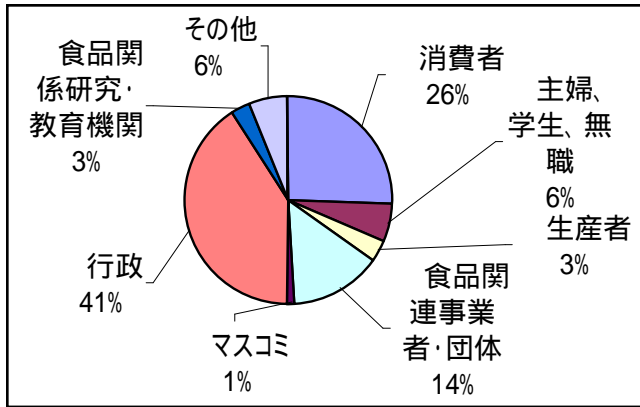
年齢

20歳未満(1人)
20歳代(11人)
30歳代(13人)
40歳代(25人)
50歳代(28人)
60歳代(14人)
70歳以上(5人)
無回答(1)



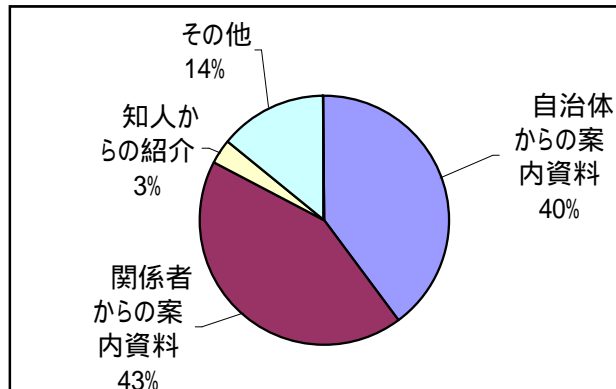
職業(複数該当する方は、主なものを1つ選んで を囲んでください。)

消費者団体(生協関係者など)(25人)
主婦、学生、無職(6人)
生産者(3人)
食品関連事業者・団体(加工、流通、販売など)(14人)
マスコミ(新聞記者、カメラマンなど)(1人)
行政(自治体職員、独立行政法人等職員など)(40人)
食品関連研究・教育機関(教員、研究職員など)(3人)
その他(6人)(具体的に：団体職員等)



本日のシンポジウム開催をどこでお知りになったか（主なものを1つ選んで を囲んでください。）

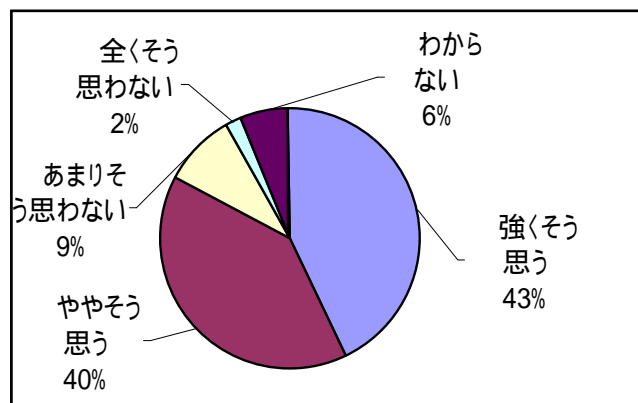
- 自治体からの案内資料（39人）
- 関係者からのご案内資料（42人）
- 知人からの紹介（3人）
- その他（14人）【新聞、インターネット、メルマガ、チラシなど】



国民の食生活を取り巻く変化や、食の安全に関する国際的な考え方において、どんな食品にもリスクがあるという前提で食品行政においてリスク分析手法が導入されています。

あなたは「100%安全な食品はないこと」について、どう思われますか。

- 強くそう思う（42人）
- ややそう思う（39人）
- あまりそう思わない（9人）
- 全くそう思わない（2人）
- わからない（6人）



問2. 本日のシンポジウムについてお聞きします。それぞれあてはまるところを で囲んでください。

本日のシンポジウムに参加された目的（複数該当する方は、主なものを1つ選んでを囲んでください。）

食品中に含まれる放射性物質について理解を深めたかったから（66人）

食品中に含まれる放射性物質のリスクについて自分の意見や考えを話したかったから（0人）

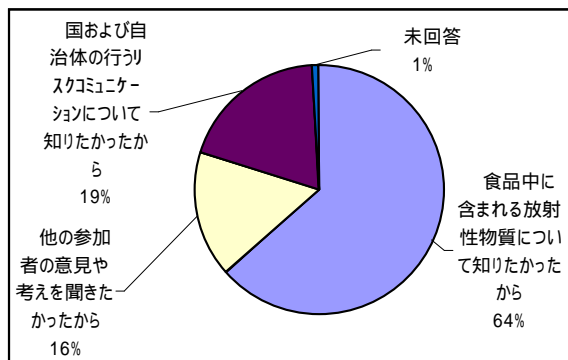
他の参加者の意見や考えを聞いたかったから（17人）

これまでにない取組みで面白そうだったから（0人）

国および自治体の行うリスクコミュニケーションについて知りたかったから（20人）

その他（0人）

未回答（1人）



上の質問でお答えいただいた目的に対して、本日のシンポジウムはどの程度満足できるものでしたか。

十分満足した（8）

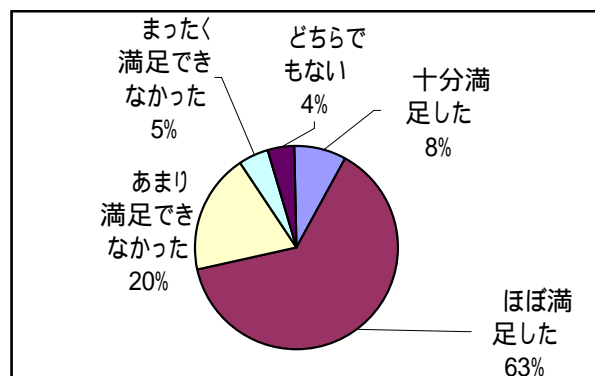
ほぼ満足した（61）

あまり満足できなかった（11）

まったく満足できなかった（5）

どちらでもない（4）

未回答（1）



【満足できなかった点として挙げられた主な意見】

- ・ 質疑の時間が少なかった。（もっと会場からの質問をうける時間を設けるべき。）
- ・ 日本の行政は事故が発生してから対応するというところに問題がある。
- ・ 基準値にあまりに敏感な質問が多すぎた。
- ・ リスク評価側（食品安全委員会）と規制側（厚生労働省）の関係が分かりづらい。
- ・ 食品のとり方はどんな方法をとっても変わらないのか、どうかの点などについても話が聞いたかった。

問3 . 本日のシンポジウムのような形式の意見交換会についてどのように思われますか。
1つ選び、下に理由をお書きください。

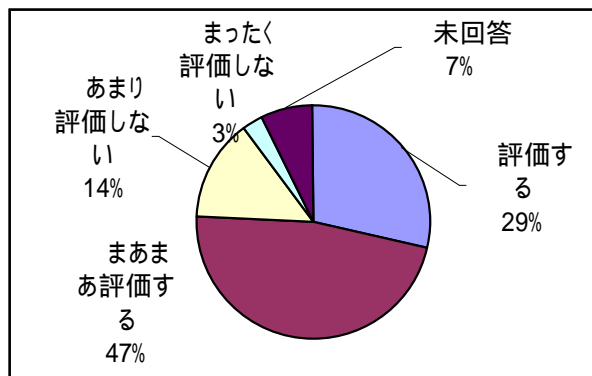
評価する (28人)

まあまあ評価する (46人)

あまり評価しない (14人)

まったく評価しない (3人)

未回答 (7)



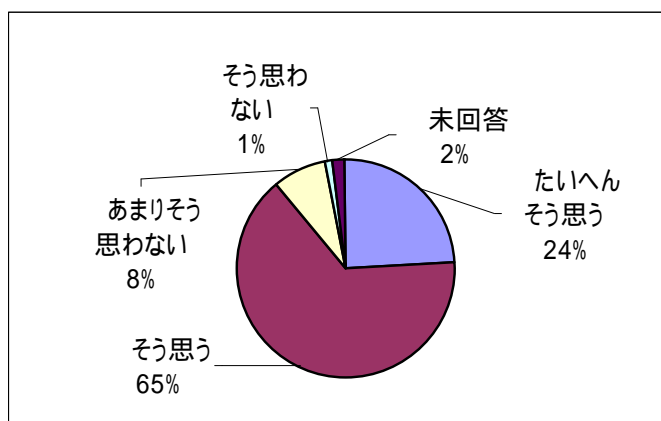
【主な理由】

- ・会場の参加の人も聞くだけでなく、疑問点などをたずねることができて良かったと思います。
- ・最大の社会的関心事だけに、適切なリスコミ上、この手のシンポ・意見交換会は意味があり、大切だと思う。
- ・講話されている時、むずかしいと思っていた事が、後のシンポジウムの時、質問された回答がわかり易く、そこで少し理解出来ました。
- ・各立場からの意見を前もって発表出来るように配慮願いたい。時間をもう少し延長して、質問に答えられるように考えるべきだと思う。
- ・様々な批判があると思われる中、開催されたのは評価する。ただ、みんなの中に上手く消化されたかは難しいと思う。

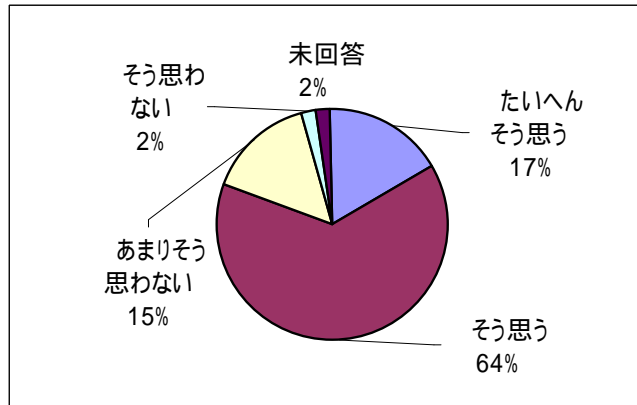
問4 . 本日のシンポジウムの進め方・内容等について伺います。会の全体を通じて感じた印象について お聞かせください。次に挙げる項目について、当てはまる番号に を付けてください。

(1) シンポジウムの進め方について

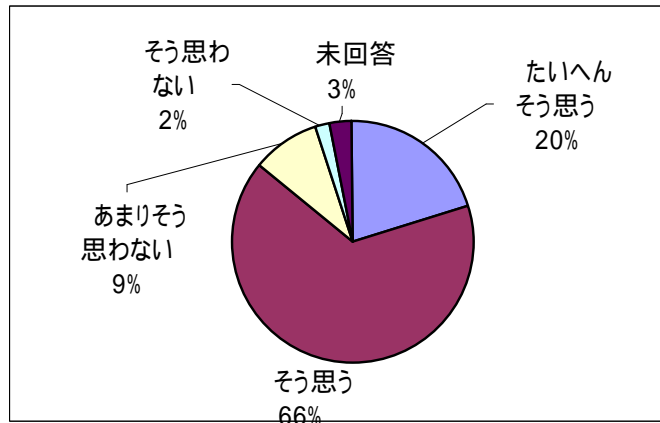
シンポジウムの開催手続き (参加申し込みの手続き等) は適切であった



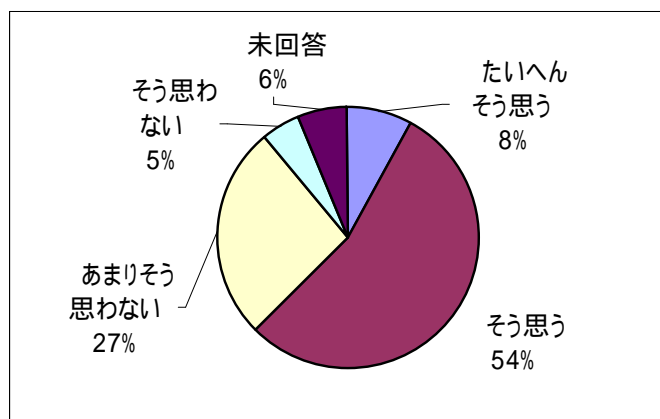
情報提供「放射性物質に係る食品健康影響評価案の概要について」は理解できた



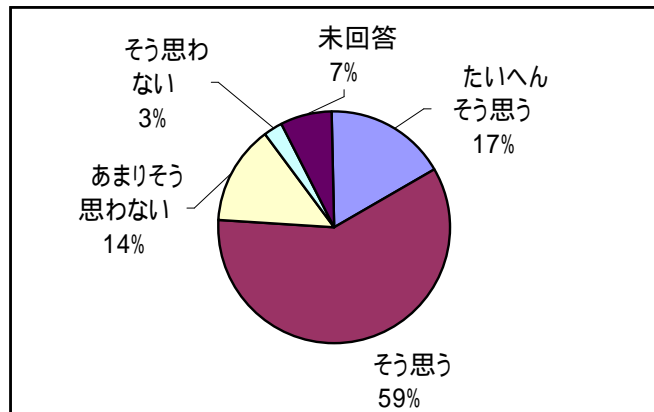
情報提供「食品と放射性物質」は理解できた



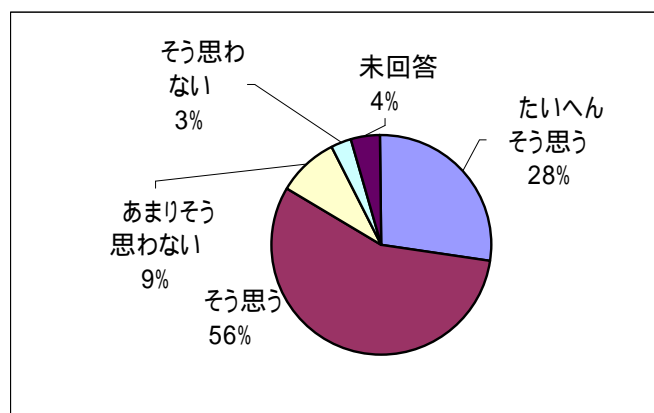
意見交換の進め方は良かった



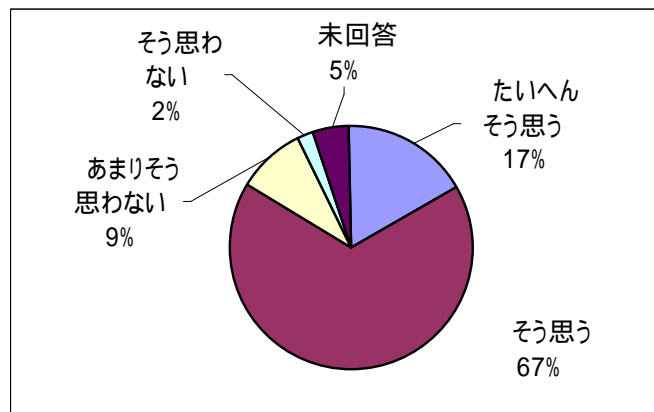
意見交換時に話題提供者や司会者は質問にきちんと対応していた



食品中の放射性物質のリスクについて、参加する前に比べ理解が深まった



自分の食生活に今回のシンポジウムで知った内容は活かせる



		たいへん そう思う	そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	未回答
進め方	シンポジウムの開催手続き（参加申し込みの手続き等）は適切であった	(24)	(63)	(8)	(1)	(2)
	情報提供「放射性物質に係る食品健康影響評価案の概要について」は理解できた	(17)	(62)	(15)	(2)	(2)
	情報提供「食品と放射性物質」は理解できた	(20)	(64)	(9)	(2)	(3)
	意見交換の進め方は良かった	(8)	(53)	(26)	(5)	(6)
	意見交換時に話題提供者や司会者は質問にきちんと対応していた	(17)	(57)	(14)	(3)	(7)
内容	食品中の放射性物質のリスクについて、参加する前に比べ理解が深まった	(27)	(55)	(9)	(3)	(4)
	自分の食生活に今回のシンポジウムで知った内容は活かせる	(17)	(65)	(9)	(2)	(5)

問5 . 本日のシンポジウムについて、全体を通してご意見やご感想がありましたらご記入ください。

消費者団体（生活協同組合関係者など）

- ・こういう機会をもっと増やして、いろんな方がたくさん参加できるようにして下さい。知ることから始まると思います。
- ・さして長くないのに、批判的発言をおさえる司会進行なら、良くないし本質的な意見交換が深まらないと思う。
- ・検査する時間、モニタリングポストの位置等の説明がなく、またあったとしてもどうい理由からそうしたかというリスクの説明がないのだろうと思う。空気線量と地面や木々に落ちてしまった放射線量の区別があいまい。内部被ばくと外部被ばくの混同・・・等。はなはだ分かりにくい。あえてそうしたとも思える。安心させてもらうというより、何が危険かをちゃんと説明されていないと選ぶことができない。講義の方向性は間違っていると思う。いかに危険かという視点で話されないと、子育てが出来ないし、子供が結婚しても子供を生まないようにと言わざるをえない。生協が生産者を守ろうとするのなら、このような高に制限値をみとめるのではなく、生産者の生活補償を、賠償という形で実現するように動いてほしい。組合の名が泣く。内部被ばくは外部被ばくよりケタはずれに怖い。外部被ばくは、離れたら減衰するが、内部被ばくは、全角度にまんべんなく当たる。線は測定できない。

主婦、学生、無職

- ・もう少し時間があれば良かったと思う。滋賀県は安全だという姿勢でのシンポジウムであったと思う。福島の子どもの妊婦さん達のことを考えたシンポジウムではなかったと思う。日本がどうなるかとても危惧する。

生産者

- ・ これからも開催されることを望む。

行政（自治体職員、独立行政法人職員など）

- ・ 行政から住民への指導がどうすれば良いのか、各市町において、安全委員会を作るべきか。
- ・ 参加する前に、基本的な知識を身につけておくべきと反省しています。
会場からの質問を聞いて、厚労省の出席が必要だったと思いました。
- ・ 放射性物質については、国民全体が不安を感じていることだと思うので、国としてしっかり、わかりやすく情報提供をしてほしい。きちんとした情報を発信することが風評被害を防ぎ、国民が安心して暮らせることにつながると思う。
- ・ 話題提供は有意義であった。しかし、意見交換についてはやや問題あり。
特に生協の会員と思われる参加者からの意見が多く、やや偏った見方・意見で時間が費やされる結果となったのは残念。